

近畿厚生局長 殿

学校法人兵庫医科大学
理事長 新家 莊平

兵庫医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	119.7人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

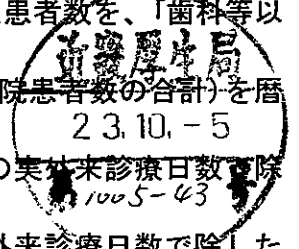
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	571人	208人	602.5人	看護補助者	111人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	18人	14人	24.5人	理学療法士	24人	臨床検査技師	91人
薬剤師	58人	2人	58.6人	作業療法士	11人		衛生検査技師
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	8人	その他	0人
助産師	23人	1人	23.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	838人	17人	848.8人	臨床工学技士	13人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	4人	0人	4.0人	栄養士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	5人	0人	5.0人	歯科技工士	3人	事務職員	217人
管理栄養士	7人	3人	9.0人	診療放射線技師	43人	その他の職員	42人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	710.9人	6.5人	717.4人
1日当たり平均外来患者数	2,318.1人	105.1人	2,423.2人
1日当たり平均調剤数	985.79剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	3人
内視鏡的大腸粘膜時下層剥離術	38人
先天性難聴の遺伝子診断	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	4人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	33人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	84人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	61人	・広範脊柱管狭窄症	60人
・重症筋無力症	79人	・原発性胆汁性肝硬変	37人
・全身性エリテマトーデス	356人	・重症急性膵炎	6人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	26人
・再生不良性貧血	60人	・混合性結合組織病	45人
・サルコイドーシス	36人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・特発性間質性肺炎	4人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	231人	・網膜色素変性症	26人
・特発性血小板減少性紫斑病	84人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	34人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	1,062人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	14人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	53人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	843人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	25人	・脊髄性筋委縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	234人	・球脊髄性筋委縮症	0人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	18人
・後縦靭帯骨化症	81人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	14人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	75人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	22人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	96人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	原則毎週水曜日に開催している 1カ月間の平均回数は4回
剖検の状況	剖検症例数 64 例 / 剖検率 10.06%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内骨髄移植療法：基礎から臨床へ	小川 啓恭	内科 血液内科	680,000	補 厚生労働省 委
HLA不適合血縁者間移植の安全性および有効性向上のための包括的研究	小川 啓恭	内科 血液内科	1,000,000	補 厚生労働省 委
造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤のエビデンスの確立に関する研究	池亀 和博	内科 血液内科	500,000	補 厚生労働省 委
ヒト白血球抗原半合致造血幹細胞移植療法の安全性確立に向けての研究	小川 啓恭	内科 血液内科	1,000,000	補 日本学術振興会 科学研究費補助 委 金
再発性多発軟骨炎の治療体系の確立に関する研究	佐野 統 (研究代表者 聖リリアン医 科大学 鈴木 登)	内科 リウマチ・膠原病 科	200,000	補 厚生労働省 委
GLP-1産生L細胞の分化・増殖機構の解明とそれに基づく新規糖尿病治療法の開発	宮川 潤一郎	内科 糖尿病科	520,000	補 日本学術振興会 科学研究費補助 委 金
血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	西口 修平	内科 肝・胆・膵科	24,000,000	補 厚生労働省 委
B型肝炎の核酸アナログ薬治療における治療中止基準の作成と治療中止を目指したインターフェロン治療の有効性に関する研究	齋藤 正紀 (研究代表者 信州大学 田中 榮司)	内科 肝・胆・膵科	2,000,000	補 厚生労働省 委
肝がんの新規治療法に関する研究	西口 修平 (研究代表者 金沢大学 本多 政夫)	内科 肝・胆・膵科	2,000,000	補 厚生労働省 委
肝発癌を抑制を視野に入れた肝硬変の栄養療法のガイドライン作成を目指した総合的研究	西口 修平 (研究代表者 岩手大学 鈴木 一幸)	内科 肝・胆・膵科	1,000,000	補 厚生労働省 委
肝炎ウイルスにより惹起される炎症性誘発要因及びウイルス増殖に対する人為的制御による肝炎征圧	西口 修平 (研究代表者 千葉工業 大学附属総合研究所 下遠野 那忠)	内科 肝・胆・膵科	6,500,000	補 厚生労働省 委
ウイルス消失例からの肝癌発症の臨床病態と発がん予測因子の同定	西口 修平	内科 肝・胆・膵科	1,690,000	補 日本学術振興会 科学研究費補助 委 金
肝癌由来増殖因子の発現制御およびシグナル伝達調節による肝癌増殖制御法の開発	榎本 平之	内科 肝・胆・膵科	1,430,000	補 日本学術振興会 科学研究費補助 委 金
腹部症状発現の分子メカニズムの解明ー神経炎症と粘膜透過症の食道症状への関わりー	三輪 洋人	内科 上部消化管科	1,170,000	補 日本学術振興会 科学研究費補助 委 金
日米共同研究によるバレット食道の発生ならびに抑制機序の解明	渡 二郎	内科 上部消化管科	1,430,000	補 日本学術振興会 科学研究費補助 委 金
胃癌の発生と進展におけるタイト結合蛋白クローデインの機能解析	大島 忠之	内科 上部消化管科	2,080,000	補 日本学術振興会 科学研究費補助 委 金
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	松本 譽之 (東京医科歯科大学 渡辺 守)	内科 下部消化管科	1,000,000	補 厚生労働省 委
アスベスト関連疾患への総括的取り組み	中野 孝司	内科 呼吸器・RC U科	72,727,000	補 文部科学省 科学技術振興機 委 構

小計

18

続発性間質性肺炎に対するレチノイドの新規治療戦略	田端 千春	内科 呼吸器・RC U科	800,000	補委 財団法人乙卯研究所
肺線維症の予防および治療方法の新規開発	田端 千春	内科 呼吸器・RC U科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
筋チャネル病および関連疾患の診断・治療指針作成および新規治療法開発に向けた基盤整備のための研究	木村 卓 (研究代表者:大阪大学 大学院医学系研究科 高橋正紀)	内科 神経・脳卒中 科	1,000,000	補委 厚生労働省
強迫性障害の新規分類基準の生物学的妥当性、臨床的有用性に関する検討	松永 寿人	精神科神経科	910,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
外科手術による癒着・線維形成過程の分子機構解析と制御法開発と探索医療への展望	藤元 治朗	外科 肝・胆・膵外 科	7,150,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
肝組織の恒常維持・修復機構における中心的存在としての肝星細胞の役割解明とその応用	飯室 勇二	外科 肝・胆・膵外 科	1,690,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
胆管細胞癌に対する新生血管・リンパ管および腫瘍内間質を標的とした分子治療研究	平野 公通	外科 肝・胆・膵外 科	1,690,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
アルギニンの惹起する細胞内シグナル伝達の研究と肝再生促進療法への研究アプローチ	鈴村 和大	外科 肝・胆・膵外 科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん(スキルス胃がんなど)に対する標準的治療の確立に関する研究	笹子 三津留	外科 上部消化管外 科	28,691,000	補委 厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	菊池 正二郎	外科 上部消化管外 科	2,000,000	補委 厚生労働省
大腸癌肺転移切除例における末梢血液中循環腫瘍細胞および内皮細胞の臨床的意義の検討	橋本 昌樹	呼吸器外科	1,430,000	補委 文部科学省 科学研究費補助 金
骨肉腫の化学療法と免疫療法の有効性向上に関する研究	麩谷 博之	整形外科	1,820,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
トランスグルタミナーゼの新規酵素活性に基づく角化の分子病態解析	山西 清文	皮膚科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
プロテアーゼ活性化受容体を介する表皮制御システムの分子病理学的解析	中川 登	皮膚科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
膿疱性乾癬の新規バイオマーカーの探索	山西 清文	皮膚科	1,500,000	補委 厚生労働省
血管新生統御を基盤としたがん・循環器疾患治療法の開発研究拠点形成	小森 慎二	産科婦人科	3,400,000	補委 文部科学省
膝神経節におけるTRP受容体ファミリーの機能解析	桂 弘和	耳鼻咽喉科	1,560,000	補委 文部科学省 科学研究費補助 金
メントールとカプサイシンが鼻炎、副鼻腔炎の病態生理に及ぼす影響	都築 建三	耳鼻咽喉科	2,730,000	補委 文部科学省 科学研究費補助 金
胃静脈瘤に対するB-RTO後の肝機能改善のメカニズムの解明	廣田 省三	放射線科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
放射線直腸粘膜障害に対する予防と治療-直腸挿入亜鉛製剤の設計と評価-	上紺屋 憲彦	放射線科	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助 金

小計

20

新生児の脳発達に伴う脳回及び容積の測定と虚血性脳疾患での評価	石 蔵 礼一	放射線科	600,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
局所療法適応外の肝細胞がんに対する頸動脈的治療法標準化(手技を含む)の研究	廣 田 省三	放射線科	1,000,000	補 委 厚生労働省
魚油の静脈投与による侵襲下好中球アポトーシス抑制の解除と組織障害軽減の研究	小 谷 穰治	救命救急センター	1,500,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	飯 島 尋子 (研究代表 東京医科大学 有井滋樹)	超音波センター	3,500,000	補 委 厚生労働省
超音波医学を駆使した慢性肝炎および非アルコール性脂肪性肝炎の非侵襲的診断法の開発	飯 島 尋子	超音波センター	4,420,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
造影超音波による進行肝癌に対する分子標的薬の早期効果判定法の開発	田 中 弘教	超音波センター	2,080,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
悪性胸膜中皮腫の細胞・分子生物学的解析と癌幹細胞の同定	藤 盛 好啓	輸血部	1,100,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
麻酔薬相互作用の神経ネットワーク並行回路近似による解析	上 農 喜朗	中央手術部	1,800,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
悪性中皮腫発生抑制にかかわる遺伝子多型の検索	玉 置 知子	臨床遺伝部	1,690,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費補助 金
				小計 9
				合計 47

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Prep Biochem Biotechnol.	Hyperglycemia induced cell growth and gene expression via the serum response element through RhoA and Rho-kinase in vascular smooth muscle cells. 2010 ; 40 : 139-51	大柳 光正	内科 冠疾患科
Int J Hematol.	Separation of antileukemic effects from graft-versus-host disease in MHC-haploidentical murine bone marrow transplantation: participation of host immune cells. 2010 ; 91 : 485-97	小川 啓恭	内科 血液内科
Int J Hematol.	Sustained improvement in cardiac function with persistent amyloid deposition in a patient with multiple myeloma-associated cardiac amyloidosis treated with bortezomib. 2010 Nov;92(4):655-8	玉置 広哉	内科 血液内科
Leuk Lymphoma.	Dasatinib is effective against optic nerve infiltration of Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. 2010 Oct;51(10):1920-2.	岡田 昌也	内科 血液内科
Blood	Allogeneic Stem Cell Transplantation For Adult Philadelphia Chromosome-Negative Acute Lymphoblastic Leukemia. 2010 ; 116 : 4368-75.	小川 啓恭	内科 血液内科
Int J Clin Oncol.	Hepatosplenic alphabeta T cell lymphoma. 2010 Apr;15(2):215-9	池亀 和博	内科 血液内科
Int Immunol.	Contribution of IL-18 to eosinophilic airway inflammation induced by immunization and challenge with Staphylococcus aureus proteins. 2010;22:561-70	森本 麻衣	内科 リウマチ・膠原病科
Clin Immunol.	Effects of the novel immunosuppressant FTY720 in a murine rheumatoid arthritis model. 2010 ; 136 : 197-204	常見 幸	内科 リウマチ・膠原病科
Mod Rheumatol.	Mizoribine protects against bleomycin-induced lung injury. 2010 ; 20 : 471-7	松井 聖	内科 リウマチ・膠原病科
Transplantation.	The protective role of host Toll-like receptor-4 in acute graft-versus-host disease. 2010 ; 90 : 1063-70	今戸 健人	内科 リウマチ・膠原病科

小計

10

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
肝疾患Review 2010-2011.	C型肝炎治療の新展開-プロテアーゼ阻害剤・ポリメラーゼ阻害剤への期待 2010:65-170.	榎本 平之	内科 肝・胆・膵科
肝臓	Acoustic Radiation Force Impulseによる非侵襲的肝線維化診断法の有用性. 2010:51:54-5	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
肝胆膵	海外の開発(STAT-C)からみたわが国の特殊性. 2010:60:193-201.	榎本 平之	内科 肝・胆・膵科
肝胆膵	NASH/NAFLDの診断 NAFLDの画像診断. 2010; 60:971-7.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
肝胆膵	肝癌進展抑制を目的としたPEG-IFN単独長期投与. 2010:61:134-41.	會澤 信弘	内科 肝・胆・膵科
INNERVISION	超音波による非侵襲的肝線維化診断 剪断弾性波の特性と臨床における有用性の検討. 2010; 25:71-3.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
消化器内科	Acoustic Radiation Force Impulseによる肝疾患診断. 2010; 50:476-81.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
臨床栄養	NASH/NAFLDの診断・治療 診断法 画像診断. 2010; 116:677-82.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
総合臨床	慢性肝疾患の非侵襲的線維化診断法. 2010:43-8.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
消化器の臨床	ペグインターフェロン α -2a. 2010:13:249-55.	今西 宏安	内科 肝・胆・膵科
内科	特発性門脈圧亢進症. 2010; 105:1025	岩田 恵典	内科 肝・胆・膵科
内科	慢性C型肝炎. 2010; 106:1102-5	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
Therapeutic research	C型慢性肝炎に対してPEG-IFN α 2aとPEG-IFN α 2bの有用性と安全性は本当に同等か. 2010:31:1021-7.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科

小計

13

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Current Research in Gastroenterology & Hepatology	Role of Hepatoma-derived Growth Factor in hepatocyte proliferation and differentiation. 2010;4:79-88.	榎本 平之	内科 肝・胆・膵科
Drug Metab Pharmacokinet.	LKM-1 sera from autoimmune hepatitis patients that recognize ERp57, carboxylesterase 1 and GYP2D6. 2010;25:84-92.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
Report of the Consensus Meeting at the 45th Annual Meeting of the Japan Society of Hepatology (2009)	Management of hepatitis C; Hepatol Res. 2010;40:347-68.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
Hepatol Res.	Crucial role of impaired Kupffer cell phagocytosis on the decreased Sonazoid-enhanced echogenicity in a liver of a nonalcoholic steatohepatitis rat model. 2010;40:823-31.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
Hepatol Res .	ITPA gene variant protects against anemia induced by pegylated interferon- α and ribavirin therapy for Japanese patients with chronic hepatitis C. 2010; 40:1063-1071.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
J Gastroenterol Hepatol.	Abdominal ultrasonography as a new modality for the diagnosis of gastroesophageal reflux disease. 2010;25(Suppl. 1):S45-8.	富田 寿彦	内科 肝・胆・膵科
J Gastroenterol	Etiology of liver cirrhosis in Japan: a nationwide survey. 2010;45:86-94.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
Trends Cancer Res.	A higher expression of hepatoma-derived growth factor in hepatocellular carcinoma cells and more tumor growth in vivo. 2010;5:29-36.	西口 修平	内科 肝・胆・膵科
Neurogastroenterol Motil.	NK-1 receptor is involved in the decreased movement in a rat chronic acid reflux esophagitis model. 2010;22:579-84.	大島 忠之	内科 上部消化管科
J Gastroenterol.	Rikkunshito, a traditional Japanese medicine, may relieve abdominal symptoms in rats with experimental esophagitis by improving the barrier	三輪 洋人	内科 上部消化管科
BMC Med Genet.	The G-Protein beta 3 subunit 825 TT genotype is associated with epigastric pain syndrome-like dyspepsia. 2010;11:13.	大島 忠之	内科 上部消化管科

小計

11

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Gastroenterol.	Non-erosive reflux disease rather than cervical inlet patch involves globus. 2010;45:1138-45.	堀 和敏	内科 下部消化管科
Digestion.	Role of transient receptor potential A1 in gastric nociception. 2010;82:150-5.	近藤 隆	内科 上部消化管科
最新医学2010 ; (別冊 新しい診断と治療の ABC68)	腹膜中皮腫. 2010 : 43-52.	中野 孝司	内科 呼吸器・RCU科
病理と臨床	胸水の臨床所見と画像診断. 2010 ; 28 : 1151-6	中野 孝司	内科 呼吸器・RCU科
J Thorac Oncol.	Clinical significance of serum VEGF in malignant pleural mesothelioma. 2010; 5: 479-83.	田端 千春	内科 呼吸器・RCU科
Eur Respir J.	A Novel clinical role of angiopoietin-1 in malignant pleural mesothelioma. 2010; 36: 1099-105.	田端 千春	内科 呼吸器・RCU科
Glin Exp Immunol.	The calpain inhibitor calpeptin prevents Bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice. 2010; 162 : 560-7.	田端 千春	内科 呼吸器・RCU科
難治性精神障害へのストラテジー	強迫性障害-いわゆる難治例とその対応. 2010 : 85-97.	松永 寿人	精神科神経科
エキスパートによる強迫性障害(OCD)治療ブック	いわゆる治療抵抗例とその対応. 2010 : 147-62	松永 寿人	精神科神経科
Arlington VA, American Psychiatric Publishing	Obsessive-compulsive spectrum disorders; Cross-national and ethnic issues. 2010:205-21.	松永 寿人	精神科神経科
CNS spectr.	Clinical features and treatment characteristics of compulsive hoarding in japanese patients with obsessive-compulsive disorder. 2010 ; 15:258-65.	松永 寿人	精神科神経科
Depress Anxiety.	HOARDING DISORDER: A NEW DIAGNOSIS FOR DSM-V? 2010 ; 27:556-72.	松永 寿人	精神科神経科
Curr Psychiatry Rep.	Evidence-based algorithm for the pharmacotherapy of social anxiety disorder-2010. 2010;12:471-7.	松永 寿人	精神科神経科

小計

13

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Comprehensive Toxicology	Carbon tetrachloride-induced hepatotoxicity. In: Roth RA, Ganey P. eds. 2010:437-55.	藤元 治朗	外科 肝・胆・膵外科
分子細胞治療フロンティア2010.	肝硬変・肝癌に対する遺伝子治療. 2010:80-8.	飯室 勇二	外科 肝・胆・膵外科
Gastroenterol Res Pract.	TLRs, NF- κ B, JNK, and liver regeneration. 2010; 2010:598109.	飯室 勇二	外科 肝・胆・膵外科
外科	肝シミュレーション技術の応用. 2010;72:363-8.	近藤 祐一	外科 肝・胆・膵外科
胆と膵	膵癌におけるプロスタグランジン-COXs代謝経路とプロスタグランジンEsの生物学的作用—. 2010;31:605-9.	藤元 治朗	外科 肝・胆・膵外科
手術	シミュレーションソフト支援による前区域肝癌切除. 2010;64:1251-7.	近藤 祐一	外科 肝・胆・膵外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci.	Preoperative estimation of asialoglycoprotein receptor expression in the remnant liver from	飯室 勇二	外科 肝・胆・膵外科
J Pediatr Surg.	Physiological and clinical characteristics of gastroesophageal reflux after congenital diaphragmatic hernia repair. 2010;45:2346-50.	奥山 宏臣	外科 小児外科
JPEN J Parenter Enteral Nutr.	Cisplatin upregulates glutamine transport in human intestinal epithelial cells: the protective mechanism of glutamine on intestinal mucosa after chemotherapy. 2010;34:530-7.	野瀬 聡子	外科 小児外科
日本周産期・新生児医学会雑誌	胎児横隔膜ヘルニアに対するgentle ventilationの治療成績：本邦における多施設共同研究. 2010;46:1138-42.	奥山 宏臣	外科 小児外科
Gastric Cancer	Safety and feasibility of laparoscopy-assisted distal gastrectomy with suprapancreatic nodal dissection for clinical stage I gastric cancer: a multicent phase II trial (JCOG0703). 2010; 13: 238-244.	笹子三津留	外科 上部消化管外科

小計

11

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Gastroenterol.	Dermokine as a novel biomarker for early-stage colorectal cancer. 2010; 45: 1201-11.	菊池正二郎	外科 上部消化管外科
Interact Cardiovasc Thorac Surg.	Who needs preoperative routine chest computed tomography for prevention of stroke in cardiac surgery? 2010;11:30-3.	宮本 裕治	心臓血管外科
J Card Surg.	Late reoperations after repair of acute type A aortic dissection. 2010;25:208-13.	宮本 裕治	心臓血管外科
Lung Cancer	Diagnosis of synchronous primary lung adenocarcinomas based on epidermal growth factor (EGFR) gene status: A case report. 2010 Jun;68(3):498-500	多久和輝尚	呼吸器外科
日本臨床スポーツ医学会誌	投球による肘関節内側側副靭帯障害に対する靭帯再建術. 2010;18:403-5.	藤岡 宏幸	整形外科
Hip Joint	CT free navigation systemを用いたTHAにおけるtotal anteversionの検討 2010;36:162-4.	福井 智一	整形外科
Hip Joint	Garden III IVの大腿骨頸部骨折に対する anatomical large head (ADEPT HIP)を用いたTHAの治療成績. 2010;36:445-8.	福西 成男	整形外科
Orthopedics	Use of image-free navigation in determination of acetabular cup orientation: analysis of factors affecting precision. 2010;33:38-42.	福井 智一	整形外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg.	Usage of absorbable thread and superglue for building chondral framework in auricular reconstruction. 2010;63:e300-1	西本 聡	形成外科
J Dermatol Sci.	Neutrophil-dominant psoriasis-like skin inflammation induced by epidermal-specific expression of Raf in mice. 2010;58:28-35.	山西 清文	皮膚科
J Dermatol Sci.	Erratum to "Neutrophil-dominant psoriasis-like skin inflammation induced by epidermal-specific expression of Raf in mice". 2010;59:64-71.	山西 清文	皮膚科
静脈学	Klippel-Trenaunay症候群の11例の治療経験. 2010;21:61-9.	中川 登	皮膚科

小計

12

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology	The Intake of Gluten and Aspirin Provoked Anaphylactic Shock and Increased Serum Gliadin Levels in a Case of Wheat-dependent Exercise-induced Anaphylaxis(WDEIA). 2010 ; 4 : 149-53.	夏秋 優	皮膚科
Eur Urol.	Prognostic of Japanese metastatic renal cell carcinoma (mRCC) patients in the cytokine era -a cooperative group report of 1,463 mRCC patients-. 2010;57:315-7.	山本 新吾	泌尿器科
Drug Metab Pharmacokinet	A transient increase of calcineurin phosphatase activity in living-donor kidney transplant recipient with acute rejection. 2010;25: 411-7.	山本 新吾	泌尿器科
Anticancer Res.	The antitumour effect of $\gamma\delta$ T Cells is enhanced by valproic acid-induced up-regulation of NKG2D ligands. 2010;30:4509-13.	鈴木 透	泌尿器科
日本薬剤師会雑誌	泌尿器科におけるがん化学療法に伴う悪心評価へのVASの応用. 2010;46:103-8.	山本 新吾	泌尿器科
日本化学療法学会雑誌	尿路感染症主要原因菌の各種抗菌薬に対する感受性. 2010;58:466-482.	山本 新吾	泌尿器科
泌尿器科紀要	陰嚢痛を主訴とする精索静脈瘤に対する顕微鏡下内精索静脈低位結紮術の検討. 2010;56:683-6.	山本 新吾	泌尿器科
Int Immunol.	Contribution of IL-33 to induction and augmentation of experimental allergic conjunctivitis. 2010;22:479-89.	三村 治	眼科
Eur Arch Otorhinolaryngol	Prognostic factors of long-term outcomes after ossiculoplasty using multivariate analysis. 2010 ; 267 : 861-5	三代 康雄	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床	多変量解析による耳小骨再建術後聴力予後因子. 2010 ; 103 : 523-8	三代 康雄	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	嗅神経芽細胞腫13例の臨床的検討. 2010 ; 82 : 597-602	宇和 伸浩	耳鼻咽喉科
口腔咽頭学会	高齢者における味覚障害の検討. 2010 ; 23 : 147-50	岡 秀樹	耳鼻咽喉科

小計
12

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
臨床放射線	放射線直腸炎に対する亜鉛製剤直腸内投与の初期経験. 2010; 55:443-9.	土井 啓至	放射線科
Magn Reson Med Sci.	High Resolution Three-dimensional T(2)*-weighted Imaging at 3T: Findings of Cerebellopontine Angle Schwannomas and Meningiomas. 2010;9(4):177-8.	石蔵 礼一	放射線科
兵庫医科大学医学会雑誌	高精度放射線治療の進歩と課題FPDを用いた放射線治療時線量監視システムの構築 2010;35:51-7	上紺屋憲彦	放射線科
Nutrition	Butyrate and propionate induced activated or non-activated neutrophil apoptosis via HDAC inhibitor activity but without activating GPR-41/GPR-43 pathways. 2010 ; 26 : 653-61.	小谷 穰治	救命救急センター
ICUとCCU	免疫能を考慮した経腸栄養法-免疫増強・免疫調節の観点から-. 2010 ; 34 : 205-12	小谷 穰治	救命救急センター
INFECTION FRONT	診療所における熱傷処置. 2010 ; 19 : 16-8	上田 敬博	救命救急センター
Hepatol Res.	Crucial role of impaired Kupffer cell phagocytosis on the decreased Sonazoid-enhanced echogenicity in a liver of a nonalcoholic steatohepatitis rat model. 2010;40:823-31.	飯島 尋子	超音波センター
Gastroenterol Res Pract.	The TLR4/TRIF-Mediated Activation of NLRP3 Inflammasome Underlies Endotoxin-Induced Liver Injury in Mice. 2010;2010:641865	今村美智子	がんセンター
Med Postgrad.	術前化学放射線療法が食道全摘術後の呼吸管理に与える影響. 2010;48:56-8	西 信一	ICU
J Anesth.	Validation of the Pentax-AWS Airwayscope utility as an intubation device during cardiopulmonary resuscitation on the ground. 2010 ; 24 : 582-6	西 信一	ICU
J Cell Physiol.	Arsenic trioxide induces apoptosis through JNK and ERK in human mesothelioma cells. 2011 Mar;226(3):762-8.	藤盛 好啓	輸血部
J Infect Chemother.	Implementation of a hospital-wide project for appropriate antimicrobial prophylaxis. 2010 Dec;16(6):418-23	竹末 芳生	感染制御部

小計

12

雑誌名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Hosp Infect.	Impact of a hospital-wide programme of heterogeneous antibiotic use on the development of antibiotic-resistant Gram-negative bacteria. 2010 May;75(1):28-32	竹末 芳生	感染制御部
Brain	Recovery of upper-limb function due to enhanced use-dependent plasticity in chronic stroke patients. 2010; 133: 3373-84.	道免 和久	リハビリテーション部
心臓	深部静脈血栓症の既往症に対する当院の 周術期2時予防の現状. 2010; 42: 990-2	上農 喜朗	中央手術部
日本臨床麻酔学会誌	初期臨床研修医における胸骨圧迫中の気 管挿管 -マックイントッシュ喉頭鏡とエア ウェイスコープの比較-. 2010; 30: 278-82	上農 喜朗	中央手術部
日本臨床麻酔学会誌	初期臨床研修医に対する超音波ガイド下 中心静脈穿刺トレーニング 効果的な教 育法への改良. 2010;3:460-464	上農 喜朗	中央手術部
日本臨床麻酔学会誌	DAM(Difficult Airway Management)実践 セミナー参加者を対象とした心肺蘇生に おける気管挿管デバイスの検討 マネキ ンを用いたシミュレーション解析 2010; 30: 278-82	上農 喜朗	中央手術部
Pathol Oncol Res.	Global histone modification profiles are well conserved between normal B lymphocytes and neoplastic counterparts. 2010;16:447-51.	松田 育雄	病院病理部
J Clin Pathol.	New double embedding technique for specimens of endoscopic submucosal dissection using agarose:comparison with other media. 2010;63:904-9.	造角 誠孝	病院病理部

小計

8

合計

102

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 太城 力良
管理担当者氏名	管理課長 由良 仁、 医事課長 内藤 泰 病歴課長 北江 正幸、 薬剤部長 木村 健

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		管理課 病歴室 薬剤部	病歴資料のカルテは、入院カルテは1入院1カルテ、1患者1ファイル方式、外来カルテは科別カルテ方式とし、入院は永久保管、外来は8年保管としている。 エックス線フィルムは、科別ファイル方式とし、入院、外来ともに8年間保管している。 なお、平成21年3月16日より、画像保存通信システム(PACS)が稼働している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	/	
	高度の医療の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課		
	高度の医療の研修の実績	管理課		
	閲覧実績			
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部		
	一規則第一号に掲げる第一項各号及び第九条の二十三第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	/
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部		
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医療安全管理部		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況		感染制御部		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全管理部		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	管理課			

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 甲斐 義啓
閲覧担当者氏名	管理課長 由良 仁、医事課長 内藤 泰、 病歴課長 北江 正幸
閲覧の求めに応じる場所	管理課会議室、病歴室閲覧室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	72.0 %	算定期間	平成22年4月1日 ~ 平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	20,444人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,721人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,131人	
	D: 初診の患者の数	34,886人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I. はじめに ー安全と信頼の医療の提供ー</p> <p>II. 医療安全管理体制確保のための委員会の組織規約</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理規程2. 医療安全管理委員会規程3. 医療事故緊急対応部会内規4. 医療事故等検討部会内規5. 医療事故外部調査委員会規程 近畿地区四私立医科大学外部調査委員会申し合わせ6. 医療安全管理部運用内規7. 医療安全管理者の業務指針8. 医療安全管理者の役割と業務9. セイフティマネージャーの設置及び業務規程10. 報告書類等<ol style="list-style-type: none">① 事故等報告範囲（日本医療機能評価機構への報告）② 医療事故ならびにインシデントの影響レベル（報告時点）③ 事実関係報告書④ 診療経過報告書⑤ 医療事故報告書（日本医療機能評価機構用）⑥ 事故発生届出書⑦ セイフティマネージャー選出届⑧ セイフティマネージャー変更届⑨ 任命書⑩ 通知書⑪ 医療事故発生時の対応方法 <p>III. 当院における医療安全管理体制図</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療事故・インシデント発生時の体制図2. インシデントレポートの流れ3. 医療事故発生時の対応フローチャート（発見者・当事者）4. 医療事故発生時の連絡網5. 医療事故発生時の対応フローチャート（セイフティマネージャー、所属長）6. 転倒事故発生時の対応フローチャート7. 点滴・注射施行時、事故発生時の対応フローチャート8. チューブ・カテーテル類の事故・自己抜去時の対応フローチャート9. 院内救急医療体制10. 患者が死亡した場合の解剖に係る手順11. アクシデント・クレーム発生時の対応ポイント <p>IV. 医療事故を起こした職員・当該部署職員への心理的支援について</p> <p>V. 大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 28 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">① 医療安全管理委員会 12回② セイフティマネージャー連絡会 6回③ 医療事故緊急対応部会 0回④ 医療事故等検討部会 0回⑤ 病院長・医療安全管理委員会コアメンバー会議 10回 <p>① 医療安全管理委員会の開催状況</p>	

<平成22年4月14日開催>

- ・医療安全管理委員会規程の改正について
- ・インシデント、アクシデント報告
- ・医療事故発生後の検証について
- ・平成21年度 医療安全管理部 年間活動評価
- ・平成22年度 医療安全管理部 年間業務計画
- ・エコーガイド下CV穿刺について
- ・VTE予防ワーキングについて

<平成22年5月12日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・VTEワーキングについて
- ・日本医療機能評価 (Ver. 6) 医療安全関連項目について

<平成22年6月9日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・厚生省医政局通知
「医療スタッフの協働、連携によるチーム医療の推進について」
- ・日本医療機能評価 (Ver. 6) に向けての検討
- ・ハイリスク薬リストについて

<平成22年7月13日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・患者が死亡した場合の解剖に係る手順の改訂
- ・同姓、類似名患者の表示方法の統一について
- ・日本医療機能評価 (Ver. 6) に向けての検討

<平成22年8月4日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・スタンダードマニュアルの改訂について
- ・救急カートの整備について
- ・診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業について
- ・医局費購入薬剤について

<平成22年9月1日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・インシデントに伴う医療費等の取り扱いについて
- ・医療安全管理のための指針 改訂
- ・医療事故スタンダードマニュアル 改訂
- ・医薬品の安全使用のための業務手順書 改訂
- ・医療機能評価への準備

<平成22年10月12日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・病院機能評価 受審報告
- ・SMの設置について
- ・平成22年度 医療監視について
- ・平成22年度 私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド 自己評価表
- ・事故発生後の検証
- ・CV挿入に関する合併症調査報告
- ・IVR専門医のエコーガイド下CV穿刺認定免除要望について

<平成22年11月1日開催>

医療安全管理委員・セイフティマネージャー合同会議

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・インシデントに伴う医療費等の取り扱いについて
- ・平成22年度 医療監視について
- ・SMの設置について
- ・CV挿入に関する合併症調査報告
- ・エコーガイド下CVカテーテル挿入認定医の申請について

<平成22年12月15日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・医療事故の報告範囲について
- ・エコーガイド下CV穿刺推進チームについて
- ・病院医療機能評価 中間報告について
- ・「医療安全のための指針」
「医療事故スタンダードマニュアル」の一部改訂

<平成23年1月12日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・医療講演会について
- ・セラピスト（PT、OT、ST）の吸引トレーニングについて
- ・平成22年度 私立医科大学病院 医療安全相互ラウンドについて

<平成23年2月9日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・持参薬管理表の記載方法について
- ・平成22年度 私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド 結果報告
- ・事実関係報告書 受領後のピアレビューについて
- ・診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業への当院の体制について

<平成23年3月9日開催>

医療安全管理委員・セイフティマネージャー合同会議

- ・インシデント報告
- ・持参薬管理表の記載方法について
- ・手書き処方箋の記載について
- ・事実関係報告書の報告
- ・平成22年度 私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド 結果報告
- ・平成22年度 セイフティマネージャー業務のまとめ

② セイフティマネージャー連絡会の開催状況

<平成22年4月28日開催>

- ・インシデント・アクシデント報告
- ・医療事故発生後の検証について
- ・平成21年度 医療安全管理部 年間活動評価
- ・平成22年度 医療安全管理課 年間業務計画
- ・VTE予防ワーキングについて

<平成22年6月23日開催>

- ・インシデント・アクシデント報告
- ・気管切開後の管理に関する事故防止 スタンダードマニュアル（改訂）について
- ・スタッフマニュアルの改訂（案）について
- ・ハイリスク薬リストについて

<平成22年9月1日開催>

- ・インシデント・アクシデント報告

- ・インシデントに伴う医療費等の取り扱いについて
- ・医療安全管理のための指針 改訂
- ・医療事故防止スタンダードマニュアル 改訂
- ・医薬品の安全使用のための業務手順書 改訂
- ・病院医療機能評価への準備

<平成22年11月1日開催>

医療安全管理委員・セイフティマネージャー合同会議

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・インシデントに伴う医療費の取り扱いについて
- ・病院医療機能評価 受審報告
- ・平成22年度 医療監視について
- ・SMの設置について
- ・CV挿入に関する合併症調査報告
- ・エコーガイド下CVカテーテル挿入認定医の申請について

<平成23年1月26日開催>

- ・インシデント、アクシデント報告
- ・病院医療機能評価 結果報告
- ・医療講演会について
- ・平成22年度 私立医科大学病院 医療安全相互ラウンドについて
- ・標準時計の追加設置について

<平成23年3月9日開催>

- ・インシデント報告
- ・持参薬管理表の記載方法について
- ・手書き処方箋の記載について
- ・事実関係報告書の報告
- ・平成22年度 私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド 結果報告
- ・平成22年度 セイフティマネージャー業務のまとめ

③ 医療事故緊急対応部会の開催状況

④ 医療事故等検討部会の開催状況

⑤ 病院長・医療安全管理委員会コアメンバー会議の開催状況

<平成22年4月22日、5月10日、6月14日、7月12日、7月15日
平成22年8月3日、9月24日、11月30日、2月10日、3月18日>
医療事故への対応

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 30 回

・ 研修の主な内容：

・平成22年6月3日（木）

テーマ 「VTE予防の最新の知見と実際」

講師 近畿大学医学部外科学教室 講師

医療安全対策室 副室長 保田 知生

ビデオ補講4日間計8回（平成22年6月14日・15日・16日・17日）

・平成22年6月10日（木）

テーマ 「人工呼吸器の安全な使用方法」

講師 兵庫医科大学病院 臨床工学技士 木村 政義

- ・平成22年7月26日(月)
テーマ 「抗がん剤暴露と安全な投与管理」
講師 兵庫医科大学病院 がん化学療法看護認定看護師 西村 裕美子
- ・平成22年8月24日(火)
テーマ 「クレーム対応について」
講師 (株)日本医療事務センター・接遇インストラクター
- ・平成22年9月2日(木)
テーマ 「カテーテル関連の血流感染対策」
講師 兵庫医科大学病院 感染制御部 一木 薫
ビデオ補講4日間計7回(平成22年9月7日・8日・9日・10日)
- ・平成22年12月13日(月)
テーマ 「薬剤の投与と医師の過失をめぐる最高裁判所の判例について」
講師 神戸地方裁判所 裁判官5名
- ・平成23年2月23日(水)
テーマ 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」について
講師 日本医療安全調査機構 モデル事業
兵庫県地域事務局 地域代表 長崎 靖
調整看護師 河村 淳子
ビデオ補講4日間計8回(平成23年3月1日・2日・3日・4日)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ① 発生したインシデントに対して、統括・専従セイフティマネージャーが発生部門セイフティマネージャーとともに、内容分析、改善策の検討並びに患者への対応の指示を行っている。また、医療安全管理委員会委員及びセイフティマネージャーから構成される「オンラインインシデント検討会」を毎週開催し、各部門に改善策の助言・提案を行うことにしている。なお、必要に応じて「医療事故等検討部会」を開催し、医療事故等の原因を分析し、改善策の検討を行っている。
 - ② 報告のあった医療事故に対し、医療安全管理委員会等で原因を分析し、対応・改善策の検討を行っている。また、事故発生1ヶ月後・3ヶ月後(必要時6ヶ月後)に統括・専従セイフティマネージャーと当該部署のセイフティマネージャーで、改善策の実施状況を検証し、医療安全管理委員会に報告している。
 - ③ 発生したインシデント・アクシデント内容からテーマを設定し、看護部事故防止委員会・各部署のセイフティマネージャーと協働して、院内監査ラウンドなどを実施している。
 - ④ 医療安全強化月間にテーマを決め、各部署の安全への取り組みを支援している。
 - ⑤ 医療安全ニュースを月2回発行し、当院のインシデント・アクシデント情報・再発防止策・事故後の検証結果、他施設の事件事例、医療安全情報(厚生労働省・学会・PMDA等)などを掲載し、職員に周知している。
 - ⑥ 職種別研修でも当院で発生したインシデント・アクシデントを教材にし、事故分析(RCA)やKYT訓練を行っている。

<具体的方策>

- 1) エコーガイド下中心静脈穿刺の導入
 - ①エコーガイド下中心静脈穿刺講習会開催 (開催13回、114名)
 - ②院内インストラクター育成 (12名: 日本シュミレーション学会認定7名)
 - ③エコーガイド下中心静脈穿刺認定医制度の変更
 - ④エコーガイド下中心静脈穿刺認定申請書の変更
 - ⑤平成22年4月~平成23年3月中心静脈カテーテル挿入時の合併症発生に関する調査続行 (H21年度3.5%からH22年度2.6%へ低減)

- 2) 静脈血栓塞栓症 (VTE) 予防対策の実施
 - ①VTEワーキング開催
 - ②VTE予防ガイドライン改訂
 - ③リスク評価表改訂
 - ④抗凝固薬のプレフィルドシリンジ剤の導入
 - ⑤肺血栓塞栓症診断・治療マニュアル作成
 - ⑥患者・家族説明用紙「静脈血栓塞栓症にならないために」作成
 - ⑦間欠的空気圧迫装置の導入 (中央管理化)

- 3) 安全な医薬品の管理対策
 - ①散剤薬包への薬剤名・用量の印字
 - ②ハイリスク薬の保管・使用手順書作成
 - ③定数配置薬の適正化

- 4) 医療事故防止スタンダードマニュアル改訂

- 5) 医療安全全国共同行動への参加
危険薬の誤投与防止、医療機器の安全な操作と管理の2項目に参加
患者誤認事故防止のポスター掲示

- 6) 医療安全強化月間 安全文化の定着と活かすシステムへの取り組み
「見直そう、自部署のリスクファクター、育てようリスク感性」
 - ①安全を最優先に考えて業務に取り組む。
 - ②事故予防のための体制を作る
 - ③業務の流れを点検し、個人の間違いが重大事故に結びつかないような仕組みを作る

- 7) インシデント・アクシデントへの対応
 - ①医療事故防止スタンダードマニュアルの改訂
 - ②救急カート・物品の見直し、ガイドラインの改訂
 - ③手術に関する申し合わせの新規作成、術前指示票の改訂
 - ④医療機器・医療材料の取り扱い事故防止スタンダードマニュアルの新規作成
 - ⑤抑制の指示・検討書の新規作成
 - ⑥同姓同名・類似名患者の表示方法の院内統一
 - ⑦持参薬管理票の記載方法の統一 など

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・ 所属職員: 専任(4)名 兼任(7)名	

(様式第13-2)

・ 活動の主な内容: ① 安全管理体制の構築：委員会の運営、指針・マニュアルの改訂など ② 医療事故を防止するための情報収集、分析、改善策の立案、フィードバック、評価 ③ 改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言 ④ 安全管理対策の実施状況の調査、分析 ⑤ セーフティマネージャーの活動支援 ⑥ 医療安全に関する職員への教育・研修の実施 ⑦ 医療事故への対応：届出・公表を含む事故発生後の対応、事故の要因分析、再発防止策の検討及び立案、再発防止策の実施検証及び指導	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>① 感染管理体制（感染管理機構、専任感染管理担当者の役割について、感染制御部へのコンサルテーション）</p> <p>② 感染症発生時の報告と解除（院内で取り決めている報告すべき感染症の発生時の報告（緊急連絡を要する微生物検査時含む）、感染症法に基づく届出及び院内の感染症報告書が必要な疾患、感染解除報告）</p> <p>③ 病院感染管理上重要な病原体・感染症に対する感染制御部の対応</p> <p>④ アウトブレイク発生時の対応</p>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院感染対策に関する事項を調査・審議し、院内感染症発生時の原因の分析、改善策の立案、実践、周知等感染管理を推進している。なお、必要があるときには臨時で開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 19 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>病院感染制御に対する基本的な考え方及び具体的施策の周知、業務を遂行するうえでの知識・技能の向上及び病院感染制御に対する意識の高揚を目的として、教育・研修を実施している。</p> <p>① 病院感染制御をテーマとする講演会を開催（全職員対象と臨床研修医対象）</p> <p>② 看護師ラダーレベル別研修、リンクナースを対象とした感染制御に関する研修を実施</p> <p>③ 清掃職員（委託業者）を対象とした病院感染制御の基本について研修を実施</p> <p>④ 院内感染の増加が疑わしい場合、または確認された場合は、施設全体または部署や職種を限定して院内感染対策に関する教育・指導を実施</p> <p>⑤ 手洗い実技指導（全職員）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有 ・ 無）</p> <p>感染症発生時は「院内で取り決めている報告すべき感染症の発生時の流れ」に沿って感染症報告書により報告を行う。（緊急連絡を要する場合は先に電話で連絡）感染症が改善した場合は「感染解除報告」に沿って感染症解除報告書を提出する。</p> <p>報告すべき感染症は、感染症新法、結核予防法、食品衛生法にもとづく疾患および院内感染管理上、迅速に対策を行う必要があるものとする。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染症発生にかかる報告、連絡があった事例は、「感染症または病原体の検出種類によるレベル分類」に基づき感染制御部が対応し、必要があれば感染対策委員会で審議し対策を講ずる。</p> <p>また、アウトブレイクを疑う事例が発生した場合、「アウトブレイク発生時の対応」に基づき対応し、アウトブレイクの可能性が高いと判断した場合、感染制御部は感染対策委員会委員長に報告し、臨時の委員会を開催し対策を協議する。</p> <p>患者個々の抗菌薬治療に関して、主治医からのコンサルテーションにより感染制御部と協議する。</p> <p>抗緑膿菌活性を有するカルバペネム系、ニューキノロン系、第4世代セファム、βラクタマーゼ阻害剤配合ペニシリン、その他の各抗菌薬の使用量をAUDで調査し、使用割合を各10～20%でコントロールし、抗菌薬の適正使用を推進する。</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (臨床研修医オリエンテーション) <平成22年4月5日(月)> ・ 医薬品の適正使用と医薬品の安全使用のための業務手順について説明 (病院全職員対象講演会) <ul style="list-style-type: none"> <平成22年9月2日(木)> テーマ 「ハイリスク薬の取り扱いについて」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 部長 木村 健 ビデオ補講4日間計7回(平成22年9月7日・8日・9日・10日) 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有 ・ 無) ・ 業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院で用いる医薬品の採用・購入などに関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 採用医薬品の選定と見直し 採用医薬品の安全性・取り間違い防止に関する検討 採用医薬品情報の作成・提供 医薬品の発注 医薬品の入庫管理と伝票管理 2. 医薬品の管理に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 医薬品棚の配置と医薬品の充填 規制医薬品(麻薬、覚せい剤原料、向精神薬(第1種、第2種)、毒薬) 病棟・各部門への医薬品の供給 病棟等の配置医薬品の管理 医薬品の品質管理 処置薬の管理 救急カートの医薬品管理 輸血用血液製剤の保管・管理 放射性医薬品・危険物の管理 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 患者情報の内容および収集・管理、活用について 入院時の使用医薬品の確認 医薬品の使用に関する指示出しと指示受け 処方せんの取り扱い 特に安全管理が必要な医薬品の処方 病棟における処方変更時の対応 処方せんの点検 調剤 院外処方せんの取り扱い TPNの調製 抗悪性腫瘍剤の調製 がん化学療法におけるレジメンの管理 	

4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項

投与

服薬指導

投与後の経過観察

医薬品使用による患者容態急変時の応援体制

副作用発現時の対応

5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項

医薬品情報の収集・管理

医薬品情報の提供

各部門、各職種等からの問い合わせに対する体制整備

患者への薬剤情報提供及び問い合わせに対する対応

6. 他施設との連携に関する事項

他施設からの問い合わせ等に関する体制整備

院外処方せんの発行に関する事項

緊急連絡のための体制整備

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
 - 病棟担当薬剤師から副作用情報の収集
 - プレアボイド報告の収集
 - 医療安全全国共同行動への参加 (危険薬の誤投与防止)
 - 調剤システム更新に伴う処方箋・薬袋印字の改善への取り組み
 - 持参薬管理票の改訂
 - 術前・検査前に休薬を要する薬剤一覧表の作成
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 定期的な医薬品の整理 (平成22年10月に55品目の削除)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 90 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>以下の機器の取り扱い方法・安全対策について研修を行った</p> <p>人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・補助循環装置・保育器・輸液ポンプ・医療ガス・放射線機器 等</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 (有) ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>以下の装置に対しては定期点検を実施している</p> <p>人工呼吸器・血液透析装置・血液浄化装置・補助循環装置・保育器・麻酔器・体外式ペースメーカー・輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器・電気メス</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液ポンプ、シリンジポンプの使用前点検・使用中点検のチェックリストを作成し、装置に添付、点検を実施できる体制を整えた。 ・ 心電図モニタの使用前・使用中点検チェックリストを作成し、各部で実施できる体制を整えた。 ・ 除細動器の日常点検チェックリストを作成し、各部で実施できる体制を整えた。 ・ 心電図モニタの安全な使用方法について啓蒙を行った。 	